

## 観光を考えるワークショップ 本郷地域 開催記録

日時：令和7年8月5日（火） 19時00分～20時30分

場所：本郷生涯学習センター研修室A・B

出席者：4名

事務局：5名

### 1. 開会

### 2. あいさつ

（産業振興課長）

本日のワークショップは、会津美里町第2次観光振興計画の策定に向けて町民の皆様から貴重なご意見をいただきたいと思います。

このワークショップの趣旨としましては、高田本郷新鶴それぞれの地域における特色や特性を皆様からご意見をいただき、どういった形で観光に活かしていけるのかというような発展的なご意見をいただきたいと考えております。

また、7月に実施した町民アンケートも提示させていただくので、アンケートの内容も折り込みながらご意見いただきたいと思います。

### 3. ワークショップ

#### ①本日のワークショップの趣旨と本日のスケジュール 目標について

事務局より資料の説明、スケジュールの確認を行った。

7月に行ったアンケート調査の結果も共有した。

#### ②グループワーク

始めに事務局のあいづまちづくりパートナーズ・阿部氏より会津美里町の観光の現状について説明した。

その後、以下の設問について発表をしてもらった。（10分間ずつ）

〈設問〉

- ・開催地域（本郷）の一番の推し観光資源（場所・イベント・食べ物・文化）は何ですか。
- ・あなたが考えるその理由、根拠は何でしょうか。
- ・そして、その観光資源が「バズる」（＝もっと有名になり、誘客すること）ためにはどうすればいいでしょうか。

#### ③発表

（参加者A）

私は生まれも育ちも本郷なので、本郷焼が一番身近であった。本郷焼とそれに合わせたまち歩きというものを提案させていただきたい。理由は、町内を見渡した際に点ではなくて面としてお客様を呼び込む可能性があるのは、本郷焼の窯元が点在しているこの本郷地域特に瀬戸町通りが一番可能性がある場所なのではないかと思う。私が子供の頃、昭和 40 年代～50 年代頃、近所にも窯元は数件あり、その時に明らかに地元の人ではない 20 代くらいの女性たちが焼物を目的に訪れていた。また、雑誌の名前は忘れてしまったが全国紙に本郷焼が取り上げられたことがあり、そのタイミングでも人が来ていた。

焼物が身近すぎて考えたこともなかったが、よそから人を引きつける魅力があるのだとその当時から思っていて、20 代になって地元に戻ってきたときにやはりこの焼物はすごく大事な財産だなと感じた。また、焼き物の産地としては東北で一番古い歴史があるので、会津本郷焼をきちんと継承して、お客様に来ていただけるような場所としての整備が必要になってくと思う。

合併前にポケットパークの整備を本郷地域で行い、未だに残ってはいるが、そこをうまく使えてないと思う。水車公園という公園があるが、昔は水車の力を使って粘土をこねたり、石を砕いたりしていた。そういうところの結びつきと、あとは飲食のところで、観光客がもっとこの町に入ってくれば、必然的に店を出す事業者は出てくると思うので、行政も補助金や土地あっせん、空き家空き店舗の紹介など同時進行でサポートできないものか。

あとは、向羽黒山城跡である。全国的に見ても山城に車で上がれる場所はなかなかないが、向羽黒山城は上まで車で上がることができる。駐車場に車を停めて 5 分 10 分である程度の意図が見れるというのはとても魅力的な場所であると思う。バズるためにやらなければならないことはたくさんあるが、基本的なところで案内板や案内板の整備が必要。本当に大きい山城なので、お客様がいきなり訪れた時にどこを周ればよいか、どこを見ればよいかというのが分からないので、基本ルート 1 時間コースだとこのくらい、2 時間 3 時間だとこのくらい、といった看板があるといい。実際の規模感でいうと、4 時間くらい山城を見てまた来ますと言って帰られるお客様がいるくらい 1 回で全てを見るのには難しいような規模の山城である。また、向羽黒山城は続 100 名城に選ばれており、全国でベスト 200 に入る山城でもあるので、町内で一番全国各地から人が来ていると思う。

(阿部氏)

昔、窯元はどのくらいあったのか。

(参加者 A)

50 年前で瀬戸町通りと路地裏に 20 数件あった。

また、街のつくりがきちんと区画整備がされていないところが面白みがあっていい。

あと、蔵にも特徴があって、明り取り用に窓が低めになっている。本郷の蔵は元々焼物の作

業用に使われていたのでそういう特徴がある。

（阿部氏）

貴重な意見をいただきありがたい。

まず、向羽黒山城は会津観光に来ている人たちを美里町に引っ張るという意味では、非常に親和性が高い場所であると思う。ただ、観光地としての環境整備という意味では、まだまだ課題が多い。山城をメインにお客様を呼び込んで、そこに来た人たちに本郷焼を手にとってもらう、買ってもらうということができたらいいいのかなと思う。

（参加者B）

私は向羽黒山城跡が推しである。先日、5時間かけて自分の足で登ってきた。

観光に来て山登りを考えている方は少ないと思うが、山城に来てちゃんと登る人はそんなにおらず、スタンプを貰いに来ている方、御城印だけを貰いに来ている方がたくさんいる。その方たちがどうしたら山登りもしてもらえるのか考えた際に、観光協会の2階でドローンで撮影した映像を流しているが、その映像を見せて山城の説明をさせていただいている。スタンプを集めたり、御城印を集めているだけでもよいが、そこから先の山城からの会津の眺めであったりを伝えていきたい。

バズるためには、山城からの眺めを写真に撮って SNS にあげてもらったりしていけたらと思う。ただ、お年寄りなどなかなか自分の足で登れない方もいるし、車で行っても5分10分も歩けない方もいる。その方たちにどうしたら足を運んでいただけるかが課題である。富士山は多くの外国人が山登りしている。あれだけの人が登っているのに、山城も登っていただけるように何か考えられるのではないかなと思う。

（阿部氏）

富士山は観光地化してしまっている。やはり観光地としての環境整備というのはもう少ししていかないといけない。

（参加者C）

本郷地域の観光資源は本郷焼であると思う。根拠については、焼き物は伸びしろがあるなと思う。例えば作り方一つでも、今はガス窯だけど昔は薪でやっていたよねとか、着色を人工的なものでやっているけど自然なものから色を取りましようとか。そういうのって多分私たちくらいの世代だと、昔のものに惹かれたりするの、何かやりようはいくらでもあるのかなと思う。形を変えやすいのでコラボもしやすい。今回、地域おこし協力隊が開かれていたが、同じマグカップの形でいろいろな窯元で作らましようとかそういうアレンジがしやすいので、全然違う業種のところと焼き物とコラボをさせて新しいものを作り出すことができるのかと思う。バズるためには、最初に話があったように行政は仕組み作りを行い、

環境整備をして、結局プレーヤーとしてやってもらうのは民間だからねって話で、やってくれる人を探す必要があると私は思っていて、山城があります、焼き物があります、遊び場がありますと言っても、結局それを整備する人は誰で、運営するのは誰で、焼き物を作るのは誰で、発信するのは誰なんですかってなった時に、いやそういう人いないよねってなったらもう意味がないので、やってくれる人を探す必要があるのではないかと思います。

(参加者D)

推しの観光資源に関しては、先ほど皆さんからいろいろ話があった向羽黒山城については、山城だけでは観光客を呼ぶのには、はっきり言って魅力がないと思う。蘆名時代はなかなか難しいので、それよりかは秀吉公が本郷を通して下野街道に行ったという歴史があるので、そういったことをもう少し正面に出してもいいのかなと思う。

それからせと市に関して、なぜああいう広場で開催するようになったかは分からないが、やはり深夜に瀬戸町通りをメインとしてやるというのが、せと市である。今のせと市は単なる瀬戸物の販売で朝市と同じであるので、元のせと市に復活するべきだと思う。

それと、一般的に告知するためにはやはり組織づくりが一番だと思うので、今観光協会さんが中心となって町と連携してやっているとは思いますが、会津には極上の会津プロジェクト協議会というものがあるので、そういうものと連携した組織づくりが必要ではないか

あとは台東区との連携である。昔から連携していて、蓋沼森林公園もその一つだと思うが、やはりもっと連携を考えてもいいのではないかと思います。

もう一つ、せせらぎ公園をもっと正面に出してPRしてもいいのではないか。キャンプブームにもなっているので、この本郷地域の魅力として推し出していくべき。

それを売っていくには、観光協会だけではなく観光業の人やまちづくりに関わっている方たちと連携した組織づくりが必要である。会津若松市だと、教育旅行の誘致委員会などがあるので、そういった組織を一つ作ってもいいのでは。

(阿部氏)

会津は元々昔から要所で歴史的にも古い土地柄だと思うので、そういったところで瀬戸物であったり、向羽黒山城を売っていくことは非常に有効的なことだと思う。

次に本郷地域以外のお勧めを教えてください。

〈設問〉

・開催地域以外(高田・新鶴)の一番の推し観光資源(場所・イベント・食べ物・文化)は何ですか。

・あなたが考えるその理由、根拠は何でしょうか。

・そして、その観光資源が「バズる」(＝もっと有名になり、誘客すること)ためにはどうすればいいでしょうか。

(阿部氏)

それではDさんから発表をお願いします。

(参加者D)

私は新鶴地域である。新鶴は温泉があり、農業があり、体験ができる。例えばワイナリーでの収穫や、ワインを作る過程の中のどこかを体験できたり、会津農林高校の農場で様々な体験ができるのではないかと思います。それにはやはり教育旅行の誘致である。また、周辺に宿泊施設もあるのでグランドを利用する方の合宿先にしたり、そういうものの観光がまず必要ではないか。

それから蓋沼森林公園である。ああいう公園はあまりないし、先ほど申し上げたように台東区と非常に関連性がある公園なので、キャンプブームに乗ってPRしてまだまだ誘致する必要があると思う。

(阿部氏)

新鶴地域の観光はPR方法や仕組み作りなどまだまだ開発しがいがあると思うので、考えていきたい。

(参加者C)

私は伊佐須美神社である。七夕祈願祭や節分祭、御田植祭など季節のお祭りが好きである。理由は、そのお祭りに参加させていただいて楽しいと思うからである。お祭りの時に法被を着て、太鼓を叩いて、笛を吹いて、地下足袋を履く経験は、横浜で生まれ育ってきた私はしたことがないので、そのような昔ながらの経験をさせてもらっていることに感動していると思う。なので参加者Dさんがおっしゃった、体験の話は私も同感で、体験をさせて経験を売っていくことは大切なことだと思う。

観光資源がバスのためには、例えばイベントを開催したり、情報発信をしていくプレイヤーを増やしていく作業が必要である。

そういうのがあって、今回エリブラが出来たと思うが、町公認団体制度みたいなものってすごくいいと思う。今は社会教育団体しか認められておらず、まちづくりの団体は認められませんみたいなことも言われているので、インスタの公式マークみたいに町公式と言ってくれるだけで、少人数のプレイヤーたちも表に出てきやすい。何かやってみたいけど実際には表に出てこない人たちを引きずり出す作業をした方がいいのかと思う。

実際、今ある補助金はイベント2回開催していれば交付しますなど、やっている人にしか出ませんというものが多く、その団体が持続的に開催していくことは難しいと思う。

例えば、団体制度を立ち上げて団体登録するにあたっての規約をつくる時にサポートしてあげるとか、イスやテーブル、テントを貸してあげるとかお金をかけないサポートもできると思う。そういうサポートをしてプレイヤーを増やす努力をした方が、話し合いがリアルに

なっていくのかなと思う。

(阿部氏)

地域振興や地域の活性化などのまちづくりを応援していくことは非常に大事なことであると思う。

僕らもそうだが、こっちに帰ってこようかなと思って帰って来ている人たちは、子供のときにそういったお祭りや地域の面白さがあるからこそ帰ってくると思う。

イベントをやると言っても、新しい何かを生み出してやるというよりかは、昔ながらのお祭りにもっと地元の子どもたちを含めいろいろな方に関わってもらい、盛り上げていくことが必要なことではないかと思う。

祭りを運営する団体も高齢化してきており、なかなかできないといった声もあるので、町民の人たち、若手の人たちを巻き込んでいくことが必要だと思う。なんなら、やり方によっては観光客にも混ざってもらい、美里ならではの体験を提供していくことも一つの観光に結び付けられるのかと思う。

(参加者B)

私は新鶴温泉をもっと勧めていきたい。あと、ワインやぶどうも。

新鶴温泉は小さい頃から通っていて、湯質も良くすごくいい温泉なのでもっともっとそれを伝えていきたいし、ぶどうも私は時期になると毎週買いに行っていて、そのくらいおいしいぶどうなのでそれを皆さんに勧めたい。

バズるには、先ほど話があったように体験が大事だと思う。

お客さん目線でいい温泉と美味しい食べ物を進めたい。

そのためにはどうしたらいいかというのが、ものすごい課題だと思う。お客さんが来ていても宿泊施設がない。ただ、この間も新鶴温泉んだに4泊5日泊まっているお客さんの対応をした時に、確かに「んだ」いいですねという話をした。そういうお客さんを一人でも増やして新鶴温泉に泊まっていただきたいと思う。本郷温泉もあるが、民営化させて運営の仕方が変わってきているので、連携して何か行っていければいいなと思う。割引券もどんどんなくなってしまって、お客さんも減っているのではないかと思う。

キャンプ場の近くにあるので、キャンプ来た方も行っている人が多いと思う。ただ、地元の方がどんどん少なくなっているのではないかと思う。観光客ももちろんだが地元の人に来てもらえるような対策もしていけないと難しいのではないかな。観光ももちろん大事だが、地元の人も来れるような場所もつくっていかなければならないと思う。

(阿部氏)

観光というのは、地域の人たちが外の人たちに自慢できて初めて観光客が魅力を持てき

てくれている。その例が、京都や鎌倉である。特段、観光客来てくださいというところにはそんなお金をかけていない。本物があるプラス住んでいる人たちがプライドを持って住んでいる。鎌倉の人たちは、観光客来てくれるなど言っているくらいである。でもここに住んでいる我々は、アイデンティティを含めてすごくプライドを持っているという状況が、外から見たらそれが凄く魅力的に見えるのが観光だと思う。やはり地域の人たちがこの町に住んでいいなと思っていただき、美里町には豊富な観光資源があるので、それを観光という切り口から観光客にどんどん来てもらいお金を落としてもらいたい反面、地域に住んでいる子供たちも含め若い人、高齢の方全体でこの町に住んでいいよね、この町いいよねと言えるような環境づくりにできたらと思う。

(参加者A)

私は伊佐須美神社である。会津の地名の由来になっているとか、古事記に出てくるなどがあるが、空気感が違う場所であると思う。

バズるためには本殿の再建築である。昔ながらに行ってきた行事に地域の方々が関わってきて、神社の催しを再構して少しずつ規模を大きくしているというのは、すごくいいなと思う。ご承知のとおり、神社というのは昔は地域の人が集う場所である。なので、そういう方向性というのが今ほど皆さんから話があった経験の部分もそうだし、何か困りごとがあったらそういうところに行くと、地域のある方や年配の方に解決してもらえたりアドバイスもらえたり、神社は本来そういう集う場所であるのだと思う。もちろん時代が違うので、昔とはもちろん違うと思うが、そういう風な流れが今できつつあるというのがいいなと思う。伊佐須美神社にもっと地域の人が集まるようになれば、より自慢できる場所になるのではないかと思う。

(阿部氏)

私も参加者Aさんが言ってることは非常に分かる。私も実感していて、神社の中でただ立って拝礼するだけで澄んだ中にいるというか、洗われていくというような感じがする場所があるので、伊佐須美神社はパワースポットなんだなと思う。

また、高田や本郷もそうだが、この辺の集落ができた源流は、伊佐須美神社があってそこに人が集まってきてこの周辺にも人が住むようになったことである。そもそも会津という地名は伊佐須美神社発祥と言われているので、この会津という地域においても美里町はなくてはならない場所だと思う。高田は伊佐須美神社、新鶴はワイナリーや温泉、本郷焼は向羽黒山と本郷焼、これらを選択と集中という部分で集中させて磨き上げて輝かせて、外からの人たちを呼ぶのはもちろんだが、中でプレーヤーをつけてそこから生まれる地域の情勢、そこから生まれるプライド、それがもっとさらに地域を輝かせて外から来る人たちが行ってみたいとなるような場所にしていけるのが本来の形であると思う。

今回は観光というところでクローズアップして行っているが、本来は全体的に全部がまち

づくりということで進めていくことが必要だと思う。

#### 4. その他

(参加者D)

福島県で今年から3年間、デスティネーションキャンペーンが開催される。今年は終わったが来年が本番、再来年がアフター。

県が全国にPRする中で、会津が一番メインになっているので、その中に美里町を含ませることができるチャンスである。旅行会社に対してもっともっと産業振興課、観光協会を含めて何か売り込んでいけないか。千載一遇である。

その中で、大内宿はこの時期でも年間100万人の観光客が来ている。美里町はあの集落のすぐ隣で、下野街道もありながらなぜこちらまで誘致できないのかとも思う。

大内宿118号から下野街道を抜けて来てくれれば本郷、高田、新鶴に誘致できる。

多くの県外ドライバーが通っているのになぜ誘致できないのかと思う。

前の首長が農協の前にテントを建てて、観光客にビラ配りをやっていたことがあるが、今は何もしていない。あと、大内宿の駐車場に行き、帰りに美里町に来てくださいと言っていたが、今そんなことは誰もやっていない。なぜ観光客を誘致することができないのかと思う。行動しなければ駄目である。

参考までに令和7年3月15日の読売新聞に、二階俊博さんが日本は観光立国ということで、観光は21世紀の日本経済を担う成長戦略の柱、観光立国は国家成長戦略の柱となり、地方創生の切り札と位置付けられた。今や観光について語らない地方自治体首長はいない。

観光とは平和産業である観光立国は、平成の日本が平和であったからこそ進められてきたもので、その時にオーバーツーリズムなどの課題も解決しなければならない。解決しながら地方活性化に繋げて欲しい。ということが読売新聞に掲載されていた。

この1万7千人くらいの町民が住んでいる中で、やはり外貨を稼ぐのはもう観光しかない。美里町は農業が基幹産業になっているかもしれないが、会津若松市は観光が基幹産業である。美里町は魅力があるものがたくさんあるので、美里町の将来は観光立国そして観光が基幹産業になるべき要素はたくさん持っていると思う。

(阿部氏)

おっしゃるとおりで、観光客を誘致するには先ほど言ったとおり、美里町単体で観光客を呼ぶのはほぼ無理である。であれば、会津観光として隣の会津若松市や下郷町までは観光客がたくさん来ているので、この人たちがどうやったら会津美里町に一步踏み込んで来てもらうかを考えるのが一番早い。そうなった時に美里町は何もないのかって言ったら、たくさんある。来る要素はあるので、あとはどこをどういう風に磨いていくか。ただその中で選択と集中というのが必要だということの話になってくる。

会津若松市、下郷町、会津美里町、この三点で観光を回すことができれば会津観光の全体に



良い効果がある。

今は会津若松市と下郷町の一本線だが、そこに美里町が入ると三角形になり、お客さんの滞留時間が増える。そうすると、今までは会津観光に来て半日ないしは一日半で見て回れたところが、美里町まで来ると一日いなければならない。そうするとおのずと泊まらなきゃいけない。そうすると落とすお金もどんどん増えていく。一泊したから、他の地域にも行ってみようと会津全体が潤ってくる施策になると思うので、ぜひ美里町には観光というところは力を入れて行っていただきたいと思う。

(参加者D)

特に新鶴地域は宿泊施設もあるので、もっと民泊を整備すればあのエリアはもっと広がる最高のエリアだと思う。

あとは、町で任命している観光大使について、この人たちはどんな活動をして美里町に貢献している事実があるのかを把握して欲しい。ただ単に観光大使に任命したことを新聞で報告しても何にもならない。もっと行政の方で観光大使に、どういう活動をしたのか聞いてもいいのではないかな。

(事務局)

アンケート調査はメールでだが行っているが、もっとやらないといけないと思う。

(参加者D)

もっと調査して、数的に把握して欲しい。町民に、この人たちはこんなことをやっているのだと言うと町民は動く。

(阿部氏)

観光大使は観光の人たちではない。観光大使は町民であり、町から外に出て行っている人たちが観光大使である。その人たちが発信するには何かといたら、ここで楽しかった思い出を作らなければならない。なのでそういうふうな、まちづくりもそうだし観光づくりもそうだし、やらなければならない。

## 5. 閉会